

経営比較分析表（令和6年度決算）

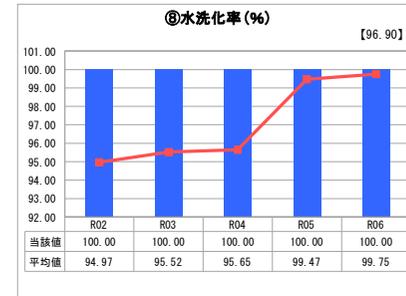
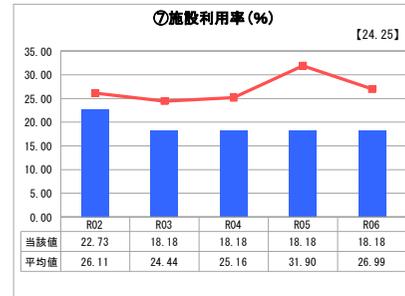
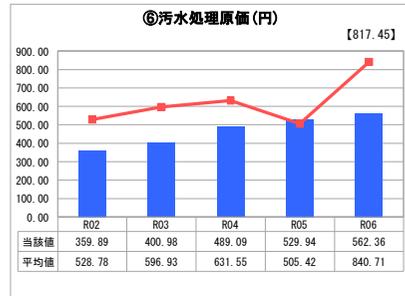
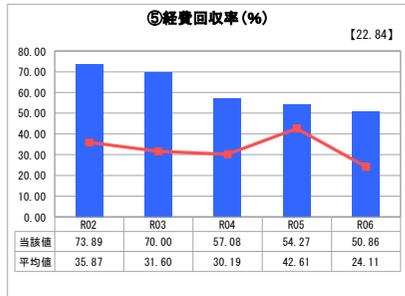
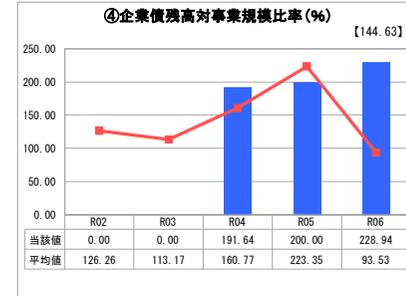
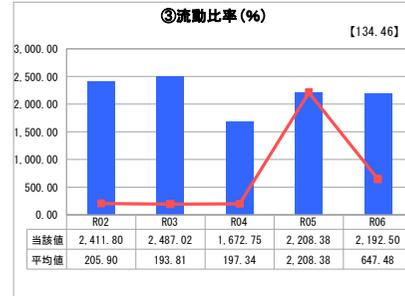
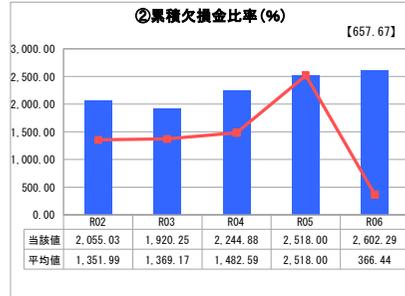
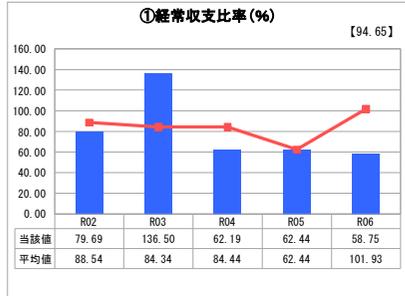
長野県 伊那市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	簡易排水	J1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ² 当たり家庭料金(円)
-	95.39	0.07	100.00	4,070

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
64,901	667.93	97.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
48	0.01	4,800.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

処理区域内人口の規模が非常に小さく基本的に赤字基調の事業です。小規模事業のため使用料収入のみで費用を賄うことが難しく、突発的な修繕など個別の事案に大きな影響を受けやすくなっています。

①経常収支比率は、低下傾向にあります。令和3年度は他会計補助金(営業外収益)の増加が影響したものであり、本年度は平時の水準となっています。

②累積欠損金比率は、未処理欠損金の積み増しに加えて、営業費用が増加したため、数値が上昇しています。

③流動比率は、現金預金の減少などにより低下しています。

④企業債残高対事業規模比率は、令和4年度に企業債残高が発生してから上昇傾向にあります。

⑤経費回収率は、低下を続けています。要因としては使用料収入が減少する中で、汚水処理費が増加していることが挙げられます。

⑥汚水処理原価は、汚水量の増加以上に汚水処理費が増加したため、上昇しました。

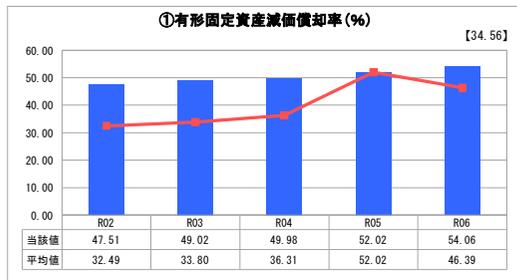
⑦施設利用率は、事業規模が小さいため、依然低い水準で推移しています。

⑧水洗化率は、既に100%となっています。

2. 老朽化の状況について

平成5年度の供用開始であるため、耐用年数が50年である管渠については、②管渠老朽化率や③管渠改善率が示すとおり更新はまだ発生していません。また管路延長は2km程度であり、機械設備等の占める割合が本市の実施する他の下水道事業に比べて高いため、①有形固定資産減価償却率も他の下水道事業より高く、50%を超えています。

2. 老朽化の状況



全体総括

処理区域内人口が少なく水洗化率もこれ以上伸びない状況です。

収入においては、今後の人口減少に伴い使用料収入が減少することが予想されるため、他会計からの補助を受けるか下水道使用料を改定する必要がありますが、当面は他の下水道事業と合わせた全体的な視点で経営を行う方針としています。

支出においては、近年の職員給与の増加や物価高騰による営業費用の増加に加え、施設の老朽化に伴う更新需要が増大していくと見込まれますが、経費の削減は限界に近いところまでできており、突発的な修繕費等が発生すれば収支の悪化は避けられません。

また、公営企業に携わる人材確保等の課題もあり、今後も厳しい事業経営が続くと予想されるため、令和5年度末に改定した経営戦略に基づき、更なる経営改善に取り組んでいきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。